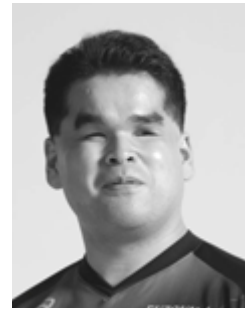


提

言

選手の立場から考える パラリンピック教育の推進

ゴールボール男子日本代表主将 のぶさわ ようしゅう
(フコクしんらい生命保険株式会社勤務) 信澤 用秀



1 はじめに

ゴールボールは視覚障がい者の団体競技であり、2020年の東京パラリンピックで、千葉県の幕張メッセを競技会場とすることが決定している。選手の視力程度に関係なく、両チーム3人ずつの選手全員がアイシェードと呼ばれる目かくしを装着して、鈴が入ったボールを転がすように互いに投げ合い、得点を狙う対戦型の競技である。ボールの転がる音や選手同士のかけ声、相手の動く物音、床の振動やラインの感触など視覚以外のすべての感覚を研ぎ澄まして戦う。

私は、現在ゴールボール男子日本代表主将を務めているが、先天性の網膜芽細胞腫により生まれたときから視力に障がいがある。左目は摘出手術を受け、今は義眼を装着している。右目は、右側四分の一程度の狭い部分で「見る」ことができる。「見る」と言っても、光を認識することができる程度で、顔を認識する、男女を見分ける等、詳細な情報を目から得ることは難しい。

小学校から高等学校、さらにマッサージ師の資格取得までの15年間、筑波大学附属視覚特別支援学校に通い、高等学校の部活動でゴールボールに出会った。

現在は日本代表の活動と並行して、資格を活かし、勤務先の社員に対するマッサージ師として、心身の安らぎを提供している。また、点字名刺の制作と勤務先が行う社会貢献活動である小学生向けのゴールボール体験授業において、先生役をしている。

私の過去4年間18回のゴールボール体験授業の中で伝えてきたことが、パラリンピック教育を推進される皆様にとって、一つでもお役に立てることがあれば幸いである。

2 パラリンピックの価値

国際パラリンピック委員会(以下IPC)は、スポーツを通じ、障がいのある人にとってよりよい共生社会を実現することを理念とし、パラリンピアンたちに秘められた力こそがパラリンピックの象徴であるとして、以下の4つの価値を重視している。

(1) 勇気

マイナスの感情に向き合い、乗り越えようとする精神力

(2) 強い意志

難しいことがあっても諦めず限界を突破しようとする力

(3) インスピレーション

人の心を揺さぶり、駆り立てる力

(4) 公平

多様性を認め、工夫をすれば誰でも同じスタートラインに立てることに気づかせる力

(出典:日本パラリンピック委員会 Web サイト)

3 提言「パラリンピック教育で重要なこと」

私は、パラリンピックスポーツを通して発信される上の2で示した価値やその意義を通して、子供たちに気づきを与え、より良い社会を作るための行動変容が起きることを願い、以下の3つを重視した授業を行っている。

(1)体験を通して考える機会を提供すること

頭で理解していることをそのまま行動に移すことは本当に難しい。子供たちの障がいに対する意識を変え、行動を変えてもらうには何が必要なのか。

私は、実際にゴールボールを体験してもらうことでパラリンピックスポーツに触れるとともに、視覚障がい者の気持ちを理解する一助となることを授業の目的の一つとしている。

ゴールボールという競技は、IPCが重視する4つの価値のうちの「公平」を体现するのに適したスポーツと言える。アイシェードを装着するので、誰でも同じ条件下にすることが容易だからである。同じ条件ということは、もうそこには隔てる障がいは何もないことを意味している。体験した小学生から、「とても楽しかった。休み時間にゴールボールをやりたいのでボールをください。」と言われた時は、少しの工夫で同じ楽しみを共有できる機会を提供できていると実感した。

(2)相手を考え、言葉に出して伝えること

視覚障がい者と接する時、見ればわかる情報を言葉に出し伝えてもらうことが必要となる。情報を相手にわかりやすく伝えるにはどうしたらよいのか。ゴールボールを通して「相手を思いやる言葉」を考えることで、視覚障がい者への理解の一助としてもらう。又、普段の生活から「相手を思いやる言葉」でのコミュニケーションの大切さを実感して欲しいと思っている。

このように、様々な障がいのある方の話を聞き、体験することで、子供たちが「自分にできること」「手伝えること」について考える力を身につけてもらいたい。

(3)本物に触れること

スポーツには、人間の可能性の極限を追求する営みという意義もある。競技スポーツに打ち込む選手のひたむきな姿や高い技

術は、人々のスポーツへの関心を高め、夢や感動を与えるなど、活力ある健全な社会の形成にも大きく貢献するものと考えている。

特に、パラリンピックスポーツは、「障がい」という負の印象を人々の心から拭い去るエネルギーを帯びている。

私たち、ゴールボール日本代表チームの監督・コーチ・選手一同は、2020年の東京パラリンピックでの金メダル獲得を目指して日々練習している。そのメンバーである私との交流から、「障がいに負けることなく強く生きる姿に勇気づけられ、自分も夢を大きく持って頑張っていきたい。」との感想を多くの子供たちから頂戴する。私でもお役に立てていると感じられる言葉で、逆に勇気づけられる。

今回の寄稿を機に、依頼があれば、時間の許す限り千葉県でも授業をさせて頂きたい。

4 おわりに「選手にとって応援の力とは」

パラリンピック教育を通じてパラリンピックスポーツに触れた子供たちが、学校の仲間や家族、地域の皆様と観戦に来てくれたら、これ以上幸せなことではない。

観客の皆さまが、日本代表チームをはじめ、世界各国の代表選手たちの白熱したプレーを観戦し、応援する中で、いつの間にか障がいの有無を忘れていて、そのような試合をお見せしたいと思っている。

選手にとっての応援は、「期待を背負うこと」であり、プレッシャーにもなる。しかし、応援の力が選手を育ててくれると私は今までの経験から断言できる。

だからこそ、千葉県の皆様に、是非幕張メッセの競技会場で観戦頂きたい。皆様と勝利の場を共にできればと願っている。そして、感謝を歓喜でお伝えさせて頂きたい。